

ナザレンの信仰を 繋いでいく使命

マルコ16章14～15節
2021年10月10日
松田 基子 師

10月第二聖日は、ナザレン日です。世界のナザレン教会員が、ナザレン教会員としての自覚を持ち、自分達に託されている使命を、再確認し、そこから更に前進して行く日です。

機関紙「ふくいん」に10月号まで、石田先生の執筆で10回にわたって

『ナザレン教会ってどんな教会？』
と言う表題で、ナザレン教会の紹介が掲載されていました。それによりますと、ナザレン教会とは、その教会名の由来は創設者達が、教会の名前を決めるに当たって、イエス・キリストがナザレ人と呼ばれたところから、

『貧しい者、小さい者を憐れみ、助け、共に歩んだ、ナザレ人イエス、あのイエスに倣う生き方を志す教会であることを標榜して、
“あのナザレ人”を意味するナザレン教会が誕生した』
と説明されています。

ところで、今朝の聖書箇所マルコ福音書16章15節で、イエス様は十字架に架かって、人類の罪を贖い、復活されると、弟子達に現れて、

「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。」

とお命じになりました。それは、イエス・キリストを信じる代々の全ての弟子達に、命じられた事でもあります。ナザレン教会も、この命令に従い、百十数年の間に、約160の国と地域に福音を宣べ伝え、教会数が3万、信徒数が約260万人という世界教会になりました。その中で、日本の教会数は69、信徒数は2019年度の報告で3,952名です。私たちはその中で、呉の地に遣わされ、ナザレンの信仰を受け継ぎ、更に広めて行く為に、今ここに生かされています。

私達は2018年に、呉教会創立百周年を祝

いました。この呉教会の創設者は、諫山修身先生夫妻と、エコーン宣教師夫妻です。時は大正7年の事で、キリスト教は世の中に、まだまだ理解されていなかった時代です。当初の開拓目的地は、広島でしたが、諫山先生の教会開拓のための、借家探しは徒労に帰してしまいました。諫山先生の回顧録によりますと、

「私たちがクリスチャンであり、宣教師達が来るという事が、分からない間は、喜んで家を貸すのですが、それが知れるとダメになってしまうのです。」

と記しておられます。その結果一行は、呉の地にやって来たのです。そしてとても古い、以前魚屋であった古家を借りて、改装し、集会が始められました。呉は、軍備増強の時代の反映で、明治36年(1903年)に、呉海軍工廠が設置され、戦艦大和を建造する、東洋一の軍港、日本一の海軍工廠の町となって行くのですが、呉教会開拓が始まったのは、呉工廠設置から、15年後で、約2万人の人々が海軍関係で働いていました。

諫山てる夫人は70周年記念誌に、
「当時呉は軍港であり、港には何時も大きな船が浮かんでいましたし、軍事工場があり、多くの若い人達が働いておりました。朝の出勤時間ともなりますと、出勤する若者達で道は溢れ、夕方と同じであります。活気に溢れた町でありました。……中略……愈々(伝道)開戦の日が来ました。伝道館の前で、まず、宣伝をいたします。エコーン師は、大変にコレネットがお上手でありましたので、吹奏をして下さいます。」

「そして、私(諫山夫人)が太鼓を打ち鳴らし、諫山(牧師)とエコーン夫人が、提灯を掲げて、歌を唱って下さいます。

人々が多く集まりますので、その人達を内に導いて、お話を聞いて頂くのであります。」
と記されています。

百年前の呉教会創設者たちは、この様にして、主イエス・キリストの福音を何とかして、一人でも多くの人に伝え、主イエス・キリストによる、命の

道へ導きたいとの一心で、伝道されました。創設者達の呉宣教は、僅か1年でありましたが、次々に信仰告白をする方々が起こり、後任の牧師と共に、呉教会が形成されて行きました。

しかし、当時は借家住まいで、百周年記念誌の会堂の移り変わりを見ますと、1950年に、元町の古家を購入して、会堂にするまで、創立から32年間、10箇所の借家を移転しての教会活動でした。その間、先達たちは様々な苦勞を抱えながらも、呉教会の灯を消す事無く、教会を守り続けて来られました。記念誌を見ますと、1937年(昭和12年)、この時日本は盧溝橋事件から、日中戦争に突入しましたが、社会情勢はアメリカとの関係が悪化し、その影響は教会にも及び、呉教会も本部からの援助が期待出来なくなり、信徒数も少なくなり、呉教会閉鎖の危機に直面しました。そのような中で、寺田老兄が、

「我が家の戸は閉じても、
教会の戸は閉じない。」

との信仰の決断を表白(ひょうはく)し、教会を守って下さいました。数か月後に、持田哲弥牧師が着任され、呉教会は存続し、その後、伝道は祝されたのでした。

一方、戦争は愈々激しさを増して行きました。礼拝中、特高の監視を受けるなど、厳しい状況に立たされました。しかし、そのような中でも、海軍士官(召天時、海軍大佐)の加藤良之助宅では、家庭集會が開かれ、艦長クラスの上級士官の夫人たちが、毎回数名出席していたそうです。持田牧師も、多忙な伝道と社会奉仕などで過勞が重なり、1943年に郷里帰省中に倒れ、そのまま病床に伏されてしまいました。

軍港呉への爆撃は必至のことで、信徒の強い勧めで、残っていた牧師家族も、久村に帰られました。その後、呉は、空襲に遭い、借家の会堂も焼失しました。ひと月半後の、1945年8月15日に、日本は終戦を迎えましたが、呉教会は牧師も、共に集まる会堂も無い状況に置かれてしまいました。終戦から3年間、呉教会は無牧

になり、忠実な信徒さん達によって、互いに連絡を取り合い、訪ね合い、祈り合い、教会の交わりが保たれて来ました。

1948年、未だ戦争の傷跡が残る、焦土と瓦礫の呉に、仲村亀太郎牧師が着任されました。仲村先生は、70周年記念誌に、

「当時の呉には、戦時中から無牧となり、飼う者のいない羊のような、兄姉がたが、数名いた。教会堂も、靈的指導者の住居もなく、長い呉教会の歴史の中では、最悪の状態にあった」

と記しておられます。

戦後の厳しい住宅事情の中で、仲村先生一家には、大変なご苦勞をお掛けしましたが、信徒さん達は、牧師に依る御言葉の取り次ぎと、牧會に飢え渴いていたのでした。2年後に、本部からの支援で、四畳半と三畳に、店舗付きの古家を購入して、やっと本格的な伝道が出来るようになりました。その後、1956年に現在地に移転し、旧会堂が建てられ、1984年には、現在のこの教会堂に、建て替えて、呉教会は本年、2021年4月で、103年の歴史を刻んで来ました。

今、私達が綺麗な教会堂で、豊かな信仰生活を送ることが出来るのは、何よりも神様の愛と憐れみであり、そして、どの様な時代、どの様な状況にも、惑わされる事無く、創造主なる神様を信じ、救い主イエス・キリストを信じる信仰を守り通し、自分が信じるだけでなく、信仰のバトンをしっかりと次の人に渡し続けて来た、先達の苦勞によるものです。先達は皆、マルコ福音書16章15節の、イエス様の命令である、

「全世界に行って、全ての造られたものに、福音を宣べ伝えなさい。」

の御言葉に忠実でした。

その福音とは、何でしょうか。福音とは、『良き音信(おとづれ)』

と言う意味です。では、イエス様が

「伝えよ」

と言われた、福音とはどんな

『良き音信』

なのでしょうか。マルコ福音書1章15節に、イエス様は公生涯に入られると、その第一声に、「時は満ち、神の国は近づいた。」

悔い改めて福音を信じなさい。」

と言われました。イエス様の出現、それは決して偶然ではありませんでした。神様の人類救済の御計画の許に、神様の決断で成された時でした。神の国とは、神様の支配を意味する言葉ですが、イエス様が公生涯に立たれたことは、いよいよ神様に依る、人類救済が切迫して来ている。神の国は近づいたことの証明でした。

神様の側では、この様に用意をして下さいました。であれば、人間に求められることは何でしょうか。それは

「悔い改めて、福音を信じる」

事です。悔い改めとは、人間的な反省、人間の努力による、やり直しではありません。信仰に依って悪から離れ、聖霊に助けられ、神様に従う、新しい生き方に変わる事です。それをもたらせて下さるのが、イエス様です。ですから、福音を信じるということは、福音の中身である、イエス・キリストを信じる事を意味しています。

では、イエス様がマルコ 16 章 15 節で

「福音を宣べ伝えなさい」

と言われた内容は、どう言うものなのでしょうか。1番目に、『イエス様はどういうお方』なのか。2番目に、『イエス様は何をして下さった』のか。3番目に、『イエス様を信じたら、どうなる』のか。を、伝えることである事が分かります。

(1) 先ず、イエス様はどういうお方なのでしょうか。ローマ書1章2節に、

「この福音は、神が既に聖書のなかで預言者を通して約束されたもので、御子に関するものです。御子は、肉に依れば、ダビデの子孫から生まれ、聖なる霊によれば、死者の中からの復活によって力ある神の子と定められたのです。」

とあります。また、コロサイ書1章15節には、「御子は、見えない神の姿であり、すべ

てのものが造られる前に生まれられた方です。天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、王座も主権も、支配も権威も、万物は御子において造られたからです。つまり、万物は御子によって御子のために造られました。」

と証言しています。この様に、イエス・キリストご自身が福音であり、第一の宣言は、神の御子であられると言うことです。

(2) そのイエス様は『何をして下さったのでしょうか』

イエス・キリストは十字架に架けられました。その十字架は何のためだったのでしょうか。エフェソ書1章7節に、

「わたしたちはこの御子において、その血によって贖われ、罪を赦されました。」

とあります。

ローマ書4章24節、25節には、

「わたしたちの主イエスを、死者の中から復活させた方を信じれば、わたしたちも義と認められます。イエスは、わたしたちの罪のために死に渡され、わたしたちが義とされるために、復活させられたのです。」

とあります。つまり、イエス様は罪の無い神の御子の身体に、全人類の罪を一身に引き受け、身代わりの十字架に架かって、滅ぼされるべき人類を贖って下さったのです。神様はそのことを受け入れ、イエス・キリストを復活させ、イエス様は信じる者の罪を赦し、神の義、つまり、

『それでよろしい。』

と言う許可をお与えになるのです。そして、罪の為に断たれていた、神様との関係が回復して神様に結ばれる者となるのです。

(3) では、イエス様を信じたら、どうなるのでしょうか。ガラテヤ書3章26節にその約束があります。

「あなた方は皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。」

続いて、4章6節には、

「あなた方が子であることは、神が、
『アッパ、父よ』
と叫ぶ御子の霊を、私たちの心に送って
下さった事実から分かります。ですから、
あなたはもはや奴隷ではなく、子です。
子であれば、神によって立てられた相続
人でもあります。」
と約束されています。

この様に、福音とは、
『イエス・キリストは神の御子であり、十字架に
人類の罪を贖い、復活して、ご自身を信じる
者に、罪の赦しと神の義を与え、神の子の身
分を与えて、神の国の相続人として下さる』
という、この世の何ものを以てしても、得る事の
出来ない永遠の救いを与えて下さるといふ、良き
音信なのです。代々の聖徒たちは、この福音
を命よりも大事にして、人々に、隣人に伝えて来
ました。その使命に生きたキリスト者達によって、
私たちは今、キリストの御救いに入れられていま
す。

「救われるのは救うため」
と言われているように、救いを与えられた私たち
には、また、この福音を伝える使命が託されてい
ます。今日、人々の心は一層、頑(かたくな)にな
った様に思われ、なかなか語り出して行けな
いでいます。だからと言って、手をこまねいて
いるのではなく、聖霊の助けを祈り求め、一人で
は難しい伝道も、皆で祈り、賜物を出し合い、こ
の命の福音を発信して行こうではありませんか。

それと、もう一つは、ナザレン教会の信仰です。
イエス様の生き方に倣い、貧しい者、小さい者へ
の共感と支援に心を向け、聖なる生活を志す事
です。世界ナザレン教会の創設者ブリージー
監督は、当時の中産階級化した教会、貧しい
人々や、少数者達に関心が無く、自分達の安逸
に、胡座(あぐら)をかいている状態に疑問を抱き、
ナザレのイエス様のように、生きる事を志して、
ナザレン教会を設立しました。私たちも、その
事をよくよく心しなければなりません。何よりも、
神様が全ての人を愛し、全ての人を救いを願っ
ておられる事を、何時も心に留めて、どんな人に

対しても、人が人として、尊ばれる事に心を注ぎ、
社会で苦しんでいる人に目を向け、何か自分に
出来る事はないかを考えましょう。

祈ったり、献金をしたりすることは、誰にも出来
ます。何よりも、関わりを持つということです。
また、聖化とは、端的に言えば、律法的になるの
ではなく、イエス様の愛に満たされて、イエス様
に似た者になる事です。これらの事を日々求
め続けて参りましょう。そして、この呉ナザレン
教会が、主イエス・キリストが再臨される、その時
まで、福音を語り続ける教会でありますよう、祈り
求めて参りましょう。

お祈りを致します。
天の父なる神様、今日はナザレン日です。
私たちの呉教会をこの地に建て、百年を越える
今日まで、お導き下さった事を感謝します。

どの様な時代も、主イエス・キリストを信じ、
呉教会を守り抜いて来た、先達に心から感謝し
ます。

今、私達に託されている福音を、私達もまた、
隣人に宣べ伝えると共にイエス様に似ることを求
め、聖化の信仰に生きる者と成らせてください。

呉教会が、主が再臨されるその時まで、福音
を宣べ伝える教会であります様に、神様の守りと
導きを宜しくお願い致します。

尊い救い主、イエス・キリストの
お名前によってお祈りを致します。
アーメン。